両側人工膝関節置換術を受けられる患者様

患者様用

患者様氏名　　受持医：　　受持看護師：　　受持理学療法士：

月日（日時）	/	/	/	/ ～ /	/ ～ /	/ ～ /	/ ～ /	/ ～ /
経過（病日等）	入院日	手術当日	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4～7日目	手術後8日目～14日目	手術後15日目～21日目
達成目標	◇退院基準を理解し同意する ◇入院、転院、手術の必要性を患者・家族が理解し同意する	◇手術の必要性を患者・家族が理解し同意する ◇疼痛がコントロールできる ◇深部静脈血栓症の兆候がない	◇神経障害、循環障害がない ◇疼痛がコントロールできる ◇車椅子にて移動できる ◇深部静脈血栓の徴候がない	◇疼痛がコントロールできる ◇車椅子で移動ができる ◇神経障害、循環障害がない ◇深部静脈血栓の徴候がない ◇膝関節屈曲90度が可能である	◇疼痛がコントロールできる ◇車椅子で移動ができる ◇神経障害、循環障害がない ◇深部静脈血栓の徴候がない ◇膝関節屈曲90度が可能である	◇疼痛がコントロールできる ◇車椅子または歩行器で歩行ができる ◇神経障害、循環障害がない ◇深部静脈血栓の徴候がない ◇自力で膝関節屈曲90度が可能である	【転院可能】 ◇疼痛がコントロールできる ◇歩行器で歩行ができる ◇神経障害、循環障害がない ◇自力で膝関節屈曲100度が可能である	【退院基準】 ◇疼痛がコントロールできる ◇一本杖歩行・階段昇降・床からの立ち上がり動作ができる ◇神経障害、循環障害がない　◇自力で膝関節屈曲100度が可能である
治療・薬剤 （点滴・内服）	持参されたお薬の確認をします	麻酔科医の指示で内服薬を調整します 手術前に抗菌薬の点滴をします （手術が午後の場合、午前中に500mlの点滴があります） 手術後500mlの点滴が3本あります	朝夕、抗菌薬の点滴があります 		痛み止めの注射が抜けましたら翌日より、膝に血液の塊をできにくくする薬を1週間内服します			
処置	手術する部位を間違わないように印を付けます 弾性ストッキングのサイズを測ります	術後安静が必要なため、血栓ができないよう足にポンプを装着します 術後、痛み止めの注射が入ってきます 手術室に入る前に弾性ストッキングを装着します	術後、足に装着していたポンプを取り外します 弾性ストッキングは歩行できるようになるまで装着します	術後2日目、痛み止めの注射が抜けます		術後4日目に包帯がとれます 傷のチェックがあります 		膝の屈曲度の測定をします
検査	必要時、採血があります		血液検査があります			手術後７日目に、血液検査とエックス線撮影があります		
活動・安静度	制限はありません	手術後3時間はベッド上安静です その後体を起こせます	車椅子に移動できます 術後、制限はありません			歩行器の訓練をします		一本杖歩行の訓練をします
食事	夕食まで食事ができます	朝昼は絶食です 手術後3時間たちましたら、看護師がお腹の動きを確認し飲水できます	通常の食事になります					
清　潔	入浴をしていただきます		両膝から下の包帯がとれるまでは看護師が身体を拭きます			包帯がとれましたらシャワー浴が可能となります		入浴ができます
排　泄	排便の確認をします	手術後は、尿の管が入っています	尿の管が抜け、介助にてトイレが行けます					
患者様及びご家族への説明生活指導 リハビリ 栄養指導 服薬指導	入院生活と手術前の説明をします 麻酔科医師の診察があります 手術室看護師が訪問します 手術後の訓練の説明をします 薬剤師が訪問し、薬について説明があります	手術後は、主治医より手術の結果と今後の方針について説明します	リハビリを始めます	主治医より病状について説明があります 治療食の場合は食事療法について説明があります		リハビリの進行に応じて転院調整を始めます 		主治医より病状について説明があります 退院後の生活について理学療法士や看護師から説明があります

入院費に関するご心配がありましたら、お早めに6番窓口へご相談ください

注）入院期間については現時点で予想される期間です。

国立病院機構熊本医療センター整形外科　平成29年3月改訂